

草薙ゼミナール

2009 年度 卒業論文集

2010 年 3 月

大阪経済大学 経営情報学部

ビジネス情報学科

指導教員：草薙 信照

草薙ゼミナール 2009年度 卒業論文集

【目次】

指導教員 草薙 信照 2009年度卒業論文集の刊行に寄せて

- M065003 岩井 直樹 ネットカフェの立地と地域特性
- M065006 YAN XIAOYING 日本企業による対中進出の地域分布
- M065009 XING GUOPENG 中国における地域別・産業別 GDP の推移
- M065016 瀬野 康亮 都道府県別に見た喫煙と病に関する考察
- M065019 竹本 百合香 * * * * *
- M065021 CHEN ZUMIN 中国における人口移動と人口重心
- M065024 中尾 展隆 都道府県別にみたアルコール消費量の時系列変化
- M065032 前川 昌典 FM ラジオ放送の聴取実態に関する研究
- M065034 又野 美由記 日本の食育と体型の変化
- M065035 松村 鮎美 ペットサービスの現状と店舗立地に関する研究
- M065038 山崎 陽平 空港別就航便数の分析
- M065039 LIU XIAOHUI 中国の収入と消費
- M065049 北村 真人 * * * * *
- M065050 黒瀬 竜彦 プロ野球選手の都道府県別出身人数
- M065051 慶田 耕一 大阪府下における回転寿司店舗の立地
- M065052 沢田 晋吾 神戸におけるホテルの立地条件
- M065053 信貴 優亮 京阪神地域における製造業の産業別分布
- M065060 二宮 健郎 伝統派空手 流派別支部の立地とその傾向
- M065076 和田 隆行 大阪市内におけるパチンコ店の立地
- M065133 佐藤 淳平 京阪神におけるレンタルビデオ店の立地

「2009年度卒業論文集の刊行に寄せて」

2010年3月

指導教員 草薙 信照

2005年度から経営情報学部がビジネス情報学科とファイナンス学科の2学科構成となったことから、諸君は「ビジネス情報学科の第二期卒業生」ということになる。そしてなんと、草薙ゼミの記念すべき「第10期生」なのである。

「データマップ；デジタル地図を通して世界を見てみよう」という看板に集まってくれた諸君に対しては、2年半という時間をかけて“厳しく鍛えてあげよう”と考えたのだが、さて、何人が正面からそれを受け止めてくれたのだろうか。20名（最終的には18名）の諸君とは、ゼミコンパや3年生冬の北海道合宿、4年生秋の京都合宿などを通じて、あるいは就職活動期における個別面談等を通じて、大きな信頼関係を築くことができたと信じている。そして、卒論提出が目前になってから（あるいは締切を過ぎてからも）、毎回のように夜遅くまでゼミ室に残り、やる気と熱気に包まれた空気を諸君と共有できたことも、今となっては良き思い出のひとつである。



さて、卒業論文の総評である。ここに並んだテーマだけを見れば、「ビジネス情報学科の卒業研究」の名に恥じない素晴らしいものばかりであり、とてもまとまりのある論文集ができあがったといえよう。しかしながらその実態は・・・あえて正直に言うとおこう“こんなにしんどい卒論指導は、かつて無かった”と。それだけに、私にとっても完成の喜びは大きいものがある。

共通テーマという縛りの中で、各人が興味のあるテーマを自ら選んだことで、辛い作業に耐えて、なんとか完成にこぎつけられたのではないだろうか。諸君と一緒に考え議論してきたことは、私にとっても良い勉強の機会となっており、そういった意味でも諸君には感謝している。

毎年、完成した後だからこそ言うことであるが、私が卒業論文の意義としてもっとも重要だと考えているのは、卒業研究のテーマや論文の出来栄ではない。自分が選んだ1つのテーマに対してこれほど真剣に取り組んで考え、苦勞しながらも論文という形にまとめたということが、間違いなく諸君を大きく成長させたであろうという点である。したがって、一生懸命に取り組んだという姿勢がひしひしと伝わってくる限り、その論文は何物にも替え難い貴重な宝物であると言ってあげたい。個々の論文の評価は、その価値を最もよく知っているはずの自分自身、そしてこの本を手にした読者の方々に委ねたいと思う。

大学生活4年間の集大成として卒業研究という大仕事をやり遂げた経験は、必ずや、これから社会人として人生に立ち向かっていく中で自信につながるだろう。そして10年後あるいは20年後にこの本を開いた時、懐かしく良き思い出として、諸君の心に鮮やかによみがえるに違いない。

今後は同じ社会人として対等に、あるいは時を経て私を導いてくれるようなつきあいをしているならば、教師としてこれにまさる幸せはない。諸君の今後の人生における健闘を期待する。